

「本山寺山森林づくりの会」活動報告(2024.08.18)

文:武田。写真:山 國

日時: 2024(令和6)年 8月 18日(日) 9:30~15:00

気象: 晴

活動エリア: 44 林班い

活動内容: 地域環境保全

参加者(会員) 猪川 誠、斧田一陽、倉谷邦雄、武田壽夫、山國 5名

<『米』を分解すると…>

⇒八十八=「米の日」、また大正4年のこの日には「全国中等学校優勝野球大会」開かれ、今年100回を迎える高校野球の記念日でもある。酷暑続きで参加を躊躇った会員も多く、集まったのは五人。山は28℃と平地より5~6℃低いが、日照りの中では、やはり堪える。蝉の声はツクツクボウシが混ざるようになり、15時過ぎると突然ヒグラシの大合唱。暑さの中、セミ達も頑張っている。

<活動地要図>



<7/21 退治したボロギクの新芽続々>



<今日の成果>

自然歩道西側の斜面上部で枯損木7本を除伐、多数の倒木を処理し、10×20m=0.03ha.を綺麗に。

自然歩道沿いの5×30m間で傾いた枯木や林床を出来るだけキレイに。ボロギク退治は山側50m程

<写真編>

<歩道脇に何処から倒れたのか>



<玉切りして谷側へ積む>



<写真編>

<p><谷側の荒れ様①></p> 	<p><左の作業後></p> 
<p><谷側の荒れ様②></p> 	<p><左の修復後></p> 
<p><ツチアケビ> ラン科</p> 	<p><カワラタケ></p> 

◆写真左はツチアケビ、光合成を行う葉を持たず、養分のすべてを共生菌に依存している。地下には太い地下茎があって、長く横に這う。地下茎には鱗片状の葉(鱗片葉)がついている。ソーセイジみたいに育つが苦みが強く食べられない。

◆右はカワラタケ、和名の由来は、屋根瓦状に重なり合って群生していることから名付けられている

「本山寺山森林づくりの会」活動報告(2024.0905)

文:武田。写真:黒山

日時: 2024(令和6)年9月5日(木) 9:30~15:00

気象: 晴

活動エリア: 44 林班い

活動内容: 地域環境保全

参加者(会員) 斧田一陽、工藤貴士、倉谷邦雄、黒山泰弘、武田壽夫、当山清之、宮本 廣 7名

<旧暦の八月十八日=『米』の字>

この頃、早稲の穂が出始めるで、昔の百姓衆の間では初穂を恩人などに贈る風習があったとのこと。そこで「田の実節句(たのみのせつく)ともいうそう。一説に家康の江戸入部の佳日とも

<活動地要図>



<7/21 退治したボロギクの新芽続々>



<今日の成果>

自然歩道西側の斜面上部で枯損木7本を除伐、多数の倒木を処理し、 $10 \times 20m = 0.03ha$ を綺麗に。

自然歩道沿いの $5 \times 30m$ 間で傾いた枯木や林床を出来るだけキレイに。ボロギク退治は山側50m程

<写真編>

<歩道脇に何処から倒れたのか>



<玉切りして谷側へ積む>



<谷側の荒れ様①>



<左の作業後>



「本山寺山森林づくりの会」活動報告(2024.09.15)

文:武田。写真:黒山

日時：2024(令和6)年9月15日(日) 9:30～14:30

気象：晴

活動エリア：45 林班に-05

活動内容：地域環境保全

参加者(会員) 斧田一陽、黒山泰弘、佐々木一雄。武田壽夫 4名

<敬老の日>

老人福祉法では65才以上が高齢者と定義されている。さて、我が森林づくりの顔ぶれは如何？。今日は半分が冷水世代。活動場所は作業小屋手前の自然歩道の三叉路を西へ入り、作業道にかかる辺りの斜面。

<鹿害に耐え桜の苗木復活>



<初顔のキノコ>



<今日の成果>

倒木 10本、除伐 20本

(鹿の食害対策として、山中に「くくり罠」が設置されたとのこと。誤って踏まないよう厳重注意)

<写真編>

<作業中>



<左の作業後>



<写真編>

<斜面の倒木処理開始>



<難行苦行で引き上げる>



<玉切りは次の機会に>



<作業道脇の処理木整理>



<秋はキノコの季節>



<写真上の整理後>



--	--